



MINATO

みなとユネスコ 会報

Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel: 03-3434-2300 Fax: 03-3434-2233 発行人 / 田部俣一郎
Mail: m-info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2024年3月1日発行 第175号

目次

P. 1 巻頭言	P. 12 いけばな
P. 2-5 パラオに残る日本語	P. 13-14 第七回日本語スピーチコンテスト
P. 6-7 イタリアオペラの風を感じて	P. 15-16 東京の森川海を知る
P. 8-10 インタナショナル・ウィンターパーティー	P. 17 新年のつどい/ P. 18 茶の湯体験教室
P. 11 ミンダナオ子ども図書館への寄贈	P. 19 薬膳料理教室/ P. 20 事務局便り

コロナ明けで再開した姉妹都市交流

港ユネスコ協会 監事 棚橋征一



自宅のある日野市は昨年、米国カリフォルニア州レッドランズ市(LA東方の郊外)と姉妹都市提携を結んでから60周年を迎えました。両市間の交流活動の中核である高校生の相互ホームステイ派遣は日野・レッドランズ姉妹都市協会により、1986年から継続実施されてきましたが、2019年以降はコロナのせいで中止を余儀なくされてきました。幸い2023年に入り、ようやくコロナが一段落したことから、これまでのうっ憤を晴らすかのように、春には日野市がレ市から来日した高校生10名を受け入れ、夏には日野から高校生10名をレ市へ派遣するという意欲的な年度内双方向派遣を実施しました。

これに加えて、2023年が日野市の市制60周年を迎える年であったことから、11月3日(文化の日)の祝典に参加するため、レ市から市長夫妻などが来日しました。短い滞在期間をフルに活用して、市役所への表敬訪問に加え、日野市内の歴史・文化施設や消防署、最新式ゴミ焼却システム等の視察、都内や富士山麓方面への観光などを通して、有意義なDiscover Japanを体験して頂くことができました。

姉妹都市交流についてはご存知のかたが多いと思いますが、1956年に米国の第14代大統領ドワイト・D・アイゼンハワーが提唱したプログラム「People-to-People Initiative(PTPI)」を源泉としています。その目的として、「to create direct connections between individuals across national boundaries, transcending political and ideological differences」、「by promoting cultural exchange, mutual understanding, and goodwill」が謳われています。国対国の関係や政治・イデオロギーを離れて、草の根の市民同士が異文化交流を通して相互理解・信頼を深め、平和の構築を訴求する姿勢は、ユネスコの精神に共通するものを感じます。このPTPIは当初、全米都市連盟のプログラムの一環としてスタートしましたが、1967年に独立して非営利公益法人 Sister Cities International(全米国際姉妹都市協会:本部はワシントンDC)となりました。

両市間の相互派遣の様子を簡単に説明すると、レ市から高校生達が来日する場合、毎回むこうの春休みを利用して3月下旬にやってきます。出発前の数か月間、グループを組んで、少しでも自分らの旅費資金を捻出するべく、地元コミュニティの住民を対象に洗車、ガレージセール等のファンドレイジングをするのが定番になっています。自助精神を尊重する米国文化を感じます。訪日を希望

(P. 10へ続く)

2023年度 第2回 国際理解講演会
「パラオに残る日本語」 ～ 日本統治の記憶と文化資源としての言語 ～

今村圭介氏 東京海洋大学 准教授

日時：2023年6月21日（水）18：30～20：30
会場：港区立男女平等参画センター リーブラ学習室C
主催：港ユネスコ協会 共催：港区教育委員会
後援：在日パラオ共和国大使館



冒頭、永野博氏（港ユネスコ協会顧問：左写真）から今村圭介氏をご紹介いただき開会した。続いて、クリスチャン エピソン ニコレクス氏（在日パラオ大使館 次席/公使参事官）からご挨拶を、芝村剛氏からパラオのご紹介を、その後、今村圭介氏からご講演をいただいた。

芝村剛氏（パラオ政府観光局 日本事務所代表）

パラオは真南に3000キロ行ったところで、時差はない。直行便はなく、グアム経由、もしくは台北経由になる。コロナ前は日本航空のチャーター便が飛んでいて、4時間半で行くことができた。パラオは小さな島国。島の数は586。人の住む島は9個。他は無人島。時差はない。公用語は英語、パラオ語。通貨は米ドル、人口は約2万人、面積は屋久島位、16州、親日的な国。

最近では、環境に熱心な国。ペリリュー島、アングウム島は、日本とアメリカが第二次世界大戦で戦った場所。

最近では、環境に熱心な国。ペリリュー島、アングウム島は、日本とアメリカが第二次世界大戦で戦った場所。

2012年、「ロックアイランド群と南ラグーン」が、文化遺産と世界遺産の両方を兼ね備えた世界複合遺産に登録された。その中には、ミルキーウエイ、クラゲの湖などがあり、世界中でここにしか無いものを求めて、日本からの観光客にもお越しいただいている。

今村圭介氏（東京海洋大学准教授）

■パラオにおける日本統治の歴史

日本統治下の状況

- ・日本帝国が拡大して領土を植民地化していく中で、その一部に南洋群島があった。
1914年～1945年まで、ミクロネシアのほぼ全域が、日本の統治下におかれた。
- ・パラオは日本統治の中心地。南洋を統括する南洋庁が置かれていた。
- ・コロール島では、日本人の人口が、一時期、島の人口の8割に達していたので、住んでいる人達は、どんどん日本化したのではないか。
- ・パラオ人専用の公学校で、日本語をたたき込まれ、日本語がどんどん浸透していった。

日本統治下の状況（委任統治）

- ・第一次世界大戦の開始とともに、ドイツからミクロネシアを奪った。
- ・1920年に正式に国際連盟より、パラオを含むミクロネシアの島々の全域を、日本の委任統治領にすることが認められたが、後に、日本は国際連盟を脱退した。

南洋における日本人人口

- ・サイパン、パラオ、ヤップ、チューク（トラック）、マーシャルでは、それぞれの島で発展の規模が違っていった。



今村圭介准教授

・サイパンは、製糖業の発展に伴って、日本人移民が多かった地域。ミクロネシアの中では一番多い。パラオは二番目で、日本の影響がかなり強く、今でも残っている。

公学校教育

最初は、日本人と同じ学校へ行っていたが、そのうち、別々になり、日本人は小学校、ミクロネシア人は、公学校に行くようになった。主に国語の習得が中心。

南洋における就学率。(1930年)(パラオが一番高い。)
サイパン(82.32%)、パラオ(93.61%)、トラック(31.21%)、ポナペ(91.61%)

■パラオに残る日本文化の影響

パラオの公学校の就学率が特に高く、日本語の基礎が習得された。公学校の他に、日本人家庭にお手伝いに行く「練習生」制度の下で、日本語の運用能力を伸ばした。そのような日本統治の影響もあり、遊び・スポーツ、名前、食文化、言語、音楽など、たくさんの分野に、今でも影響が及んでいる。野球は国技のように扱われていて、野球用語に日本語が入っている。

日本統治を経験した世代

パラオ人の人名：知り合いの日本人の名前を、自分の名前にしたなど。日系人も非日系人も。

例えば、

Sato-san (戦後日本語を話していないと、言われていたが、話してみると、しっかり受け答えができる)

Kingzio-san (沖縄系パラオ人。戦後も免税店で働いていて、日本人相手に話していたので流暢な日本語が話せる。)

パラオの電話帖にみる日本語

名前の総数：3576名(2010年)

日本人名(姓 or/and 名)703名 19.65%

電話帖では、約20%の人が姓か名で、日本人名を持っている。

パラオ全体で日本人の名字が多い理由：

- ① 日本統治時代に名字が浸透したため。名字が無い人が、戸籍や学校で名字が必要になり、他の人の名字をとってきて付けた。それが今でも残っている。戦後になっても変えないのは、親日効果と思われる。
- ② 外の影響を受け入れる習慣
日本統治時代には、日本語の名前を付け、米国統治時代には、英語の名前を付けている。日本語名は、少なくなっているが、まだまだ残っている。
- ③ 親族の名前を付ける習慣
日本人名が約10%残っているのは、親族の名前を付ける習慣があるから。祖母の名前をそのまま孫に付ける慣習がある。

パラオに見られる日本の食文化の影響

スーパーを見ると、ARARE コーナーがあり、BENTO、RAMEN なども売られている。TAMA (油パン) は戦前からあり、今でも人気。自家製の KARINTONG は、日本ですたれているが、パラオでは残っている。

片仮名の使用

- ・日本の統治下で日本語（カタカナ）を習った。
パラオ語で手紙のやり取りや日記を付ける時には、カタカナで書く。
- ・選挙の投票用紙の例では、
カタカナ表記とアルファベット表記の両方がある。高齢者に配慮した習慣で、これも日本語の影響がパラオ語にまで及んでいる例。

■日本文化に残るパラオ語の影響

例えば、「レモン林」「おやどのために」「パラオ5丁目」は、1950年代にサイパンで、小笠原出身者がパラオの青年から習い、小笠原に伝えられ東京都無形文化財に指定されている。

■パラオに残る日本語

アンガウル州（島）における日本語

アンガウル州では、1946年から10年間ほど300人の日本人が燐鉱石採掘の労働者として住んでいて、戦後も日本語の使用が継続していた。その影響もあり、戦後生まれの世代にも日本語使用が、一部伝わった。

アンガウル憲法による公用語

- ・アンガウル州は、世界で唯一日本語が公用語と定められている。
- ・アンガウル州の公用語は、パラオ語、英語、日本語。
- ・アンガウル州では、日本語を話すのは当然になっていたもので、迷うことなく、日本語が公用語になった。現在、日本語を話せる人がたくさんいる訳ではないが、憲法には今も残っている。

パラオ語の中の日本語の借用語

戦前、生活語彙を中心に、さまざまな日本の語彙、表現1000語以上がパラオ語に入り、借用語の入る意味分野でも、動植物、自然、場所、地名、住居、生活用品、食品、食生活、学校、運動・スポーツ、遊び、娯楽、医療、衛生、服装、美容、商業など多岐にわたり、日本語の影響の大きさが分かる。

ミクロネシアの言語の日本語借用語数（上位10言語）

パラオ語（1201語）、チューク語（538語）、ポナペ語（412語）（中略）
チャモロ語（196語）、マーシャル語（188語）
（日本語の単語が入っているのは、パラオ語が一番多い）

日本語借用語の例

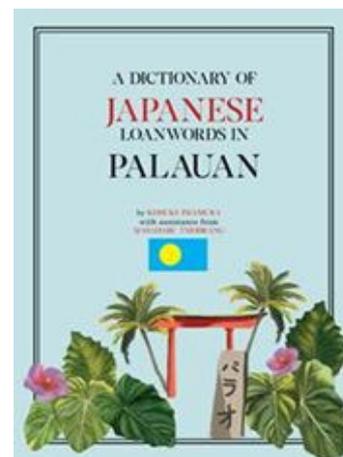
- ・習慣（Siukang）：悪い習慣を排除する。お葬式の習慣。
- ・検査（Kensa）：当時のパラオには、衛生の概念が無かったので、借用語が入った。
- ・選挙：戦後、選挙の制度ができたところに、パラオ語に日本語から借りてきた語が入った。
候補者（Kohosia）、電話（Dengua）

■文化資源として言語の活用

- ・文化資源とは、ある時代の社会と文化を知るための手がかりとなる、貴重な資料、総体（文化資源学会2002）と定義されている。パラオ語の日本語借用語も文化資源となりうるもの。是非、これを活用したい。その一環として、「パラオ語・日本語借用語辞典」を作った。
- ・文化資源は、保存するだけのものではなく、その活用を推進することが望まれる。

「パラオ語における日本語借用語辞典」

- ・ Palau Language Commission と共同で作成
- ・ 1000語以上の日本語借用語を収録
- ・ パラオ語教育での活用例も収録
- ・ 500部印刷し、教育省を通じてパラオの学校に寄贈。



辞書の教育的利用

- ・ どのようにして、辞書を活用するのか？言葉からパラオに残る日本の影響を学ぶことができる。
- ・ 現在でもパラオ語に残る日本語の影響を可視化し、辞典の教育的利用を推進することにより、パラオ語に関する知識を深めるだけでなく、日本との繋がりの再認識に繋がると考える。

大使館の活動

世界各国に広がる我が国の大使館や総領事館では、対日理解促進や親日派の形成を目的として、外交活動の一環として、きめ細かな日本文化紹介事業を実施している。



ニコレスク公使参事官

在パラオ日本大使館による取り組みにて、日本語借用語の研究が活かされている：

- ・ パラオ人に日本を知ってもらうために。
アニメなどのサブカルチャーによる繋がりよりも、歴史的な繋がりの方が
親日派の形成に繋がると思われることから、日本語からの借用語を使って
のエッセイコンテストを行うなど、日本との歴史を共有している。
- ・ 日本人にパラオを知ってもらうために。
日パラオ外交関係樹立25周年記念動画の取り組み（パラオ語における日本語借用語を紹介する動画）。
YouTube で配信。視聴回数38万回（2023年5月時点）
Facebook、Twitter による配信も積極的に行う。

本日のまとめ

- ・ 戦前の日本統治による文化的影響は、今なお、パラオに残る。また、パラオを含む南洋で形成された新たな文化は、日本の一部に影響を与えている。
- ・ 戦前教育を受けた世代は、話し言葉としての日本語や、カタカナを継続して使用してきた。その影響もあり、アンガウル州では、日本語が公用語となり、一部戦後世代にも伝わっている。
- ・ 戦後世代はほとんど日本語そのものを使うことはないが、パラオ語の中での借用語、人名・地名には、現在も日本語起源のものが広く使われる。
- ・ 現在も借用語という形で残る日本語は、日・パラオ両国の親善のための文化資源として活用することができる。

最後の質疑応答では、参加者の中でパラオを訪問したことがある方が積極的に発言され、和やかな雰囲気の中、終了いたしました。

（常任理事 国際学術文化委員会 佐藤律子）

2023年度 第3回国際理解講演会
「イタリアオペラの風を感じて」
～現役オペラ歌手とピアニストによるレクチャーコンサート～

渡辺大 氏 オペラ・テノール歌手
久保田翠 氏 ピアニスト

日時：2023年10月29日（日）14：00～16：00

会場：港区立男女平等参画センター リーブラホール

【第一部 イタリアオペラの潮流と声楽技法】

・はじめにオペラとは

オペラ＝歌劇です。演劇のセリフを歌にした音楽劇で総合舞台芸術です。16世紀末にイタリアのフィレンツェでギリシア劇の復興をしようとする動きが始まりました。すり鉢状の屋根のないギリシア劇場で行われ、音響が届くように計算し設計されていました。時代によって楽器や演奏スタイルが変化していきました。



・オペラの作り方

オペラにはまず題材となる原作があり、演劇のセリフを歌にしたすべての叡智を集めた総合芸術です。台本作家が台本を書き、作曲家が音楽を作る役割分担で出来ます。

例えば「アイダ」の場合は考古学者のマリエットが原案を作成、カミーユ・デュ・ロクルが原台本（フランス語）を作成、ヴェルディが台本作家ギスランツォーニに指示をしながらイタリア語韻文による台本を作成、ヴェルディが作曲しました。

・オペラの担い手たち

指揮者・オーケストラ・歌手・ダンサーがおり、演出家・演出助手・プロンプターがいます。舞台では照明・衣装・美術のそれぞれの担当、大道具・小道具係がおり、制作進行・舞台監督・スタッフ・メイク床山などの役割があり、これら全員でオペラを作り上げていきます。

・バロック時代

テノール歌手のいない時代、去勢された歌手が高音を出す超絶技巧のカストラートが活躍。独唱の前で話を進めるレチタティーヴォと言われる台詞のような音楽も使われるようになりました。

♪ヘンデル「リナルド」より《私を泣かせてください》1711年

・モーツァルトの時代

アンサンブルオペラが盛んな時期、また王様の為のお金のかかるオペラ・セリアからオペラ・ブッフアという喜劇が登場し、民衆の為のオペラと言われました。さらに、脚本を書く天才台本作家ダ・ポンテも現れて、魅力的な人間ドラマも生まれてきました。

♪モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」より《愛のそよ風は》1790年

・超絶技巧のバルカント時代

カストラートから脱出してテノールができる時代になりました。それは声楽技術がどんどん発展して高い音が出せるようになったためです。一つのシーンの中に複数の曲の入った（二部～三部形式）カヴァティーナ・カヴァレッタ様式や敏捷性のある音でフレーズが構成されるアジリタなどの手法がこの時代のポイントです。

♪ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」より《空は微笑み》1816年

♪ベッリーニ「清教徒」よりおお、愛らしい乙女よ》1835年

・旋律の魔術師 プッチーニ

プッチーニは数々の大ヒットオペラを作曲しました。その時代は大勢で多くの楽器をつかうオーケストレーションの変化があり、声楽もその中でオーケストラの多用する周波数とは違う声楽の周波数を使った声楽技法の変化で小さな声でも遠くまで聞こえるような技法を使うようになりました。

♪プッチーニ「トスカ」《星は光りぬ》1900年

【第二部 オペラのテキストを読んでみよう、歌ってみよう】

♪ヴェルディ「ナブッコ」《行けわが想いよ、黄金の翼に乗って》

- ・オペラは詩でできている

まずオペラは詩で出来ていると冒頭にも申し上げましたが、オペラ(詩)のリズムと言葉が効果的な形で「韻文」となっています。「ナブッコ」というオペラは旧約聖書からの話です。イタリアの第二の国歌ともいわれ、イタリア人には大変エモーショナルな歌で、サッカーの試合の大会などでも必ず演奏されます。

- ・オペラの詩の読み方

この詩は一行が10個の音節を構成し、最後の部分が「韻」となっており、お経を読むように1音節ずつ読んでみましょう。と言う事で会場の参加者と一緒に詩を朗読します。

Va, pen-sie-ro , sul-l`ali do-ra-te;
va, ti po-sa sui cli-vi, sui col-li,
o-ve`o-lez-za-no te-pi-de`e mol-li
l`au-re dol-ci del suo-lo na-tal!

行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って
行け、あの山や丘で憩いつつ
祖国の暖かく柔らかい風が薫っている

- ・合唱

ピアノの伴奏で会場参加者全員でこの曲(詩)を歌いました。



講演後の質疑応答

Q：日本語や英語のオペラはないのですか

A：日本語では團伊玖磨作曲の「夕鶴」などがあります。英語ではレナード・バーンスタイン作曲の「キャンディード」などがあります。

Q：はじめて見るオペラにおすすめの作品は

A：ヴェルディの「椿姫」がおすすめです。

Q：声楽家はみんなオペラ歌手を目指すのか

A：オペラ歌手だけではなくミュージカル歌手や宗教曲楽ソリストもいます。

Q：先生の一番好きなオペラは

A：いろいろあるが「椿姫」や「フィガロの結婚」などです。

Q：オペラはマイクを使わないのか

A：原則は使わないが、大劇場では台詞部分にマイクを使うこともあります。

Q：オペラとオペレッタの違いは

A：オペレッタはイタリアにはなく、オペラはすべて歌で出来ています。一方オペレッタにはせりふがあり、ワルツやダンスが多く肩の力を抜いて楽しめます。オペレッタの代表的作品に「こうもり」(ヨハン・シュトラウス2世作曲)があります。



(国際学術文化委員会 梅根敬一郎)

インターナショナル・ウインターパーティー

日時：2023年12月3日（日）17時30分～20時30分
会場：赤坂区民センター多目的室



2023年度ユース活動委員会のイベントとして、『インターナショナル・ウインターパーティー』が、開催されました。本イベントは、ユース活動委員会としては初のイベントで、以前より若者を中心として若い世代だけでなく、幅広い世代が集い楽しむ場として、ユネスコ活動を知ってもらうきっかけ作りを提供したいという古市常任理事の熱い思いを形にしたイベントでした。

初の企画であったことから、当初は「失敗したらどうしよう」という不安も多少ありましたが、今年度からユース活動委員会の委員長として就任された児玉晋氏が上場企業の部長職で、個人的にも長年のつきあいがあり、大変信頼していたことから、古市さんと児玉さんを中心に企画をしていけば必ず成功するという自信もありました。

■ インターナショナル・ウインターパーティーの企画づくりから当日まで

当初決められた予算に基づき、毎月1回以上、定期的にオンラインミーティングを行いました。毎月1回以上の定期的なミーティングというのと、とても大変そうに思う人もいるかもしれませんが、「参加していただいた皆様に喜んでもらうイベント」をチームで作りに上げていくことは、とてもやりがいがありました。企画を成功するうえでとても大切なことはチームワークです。一つの目標に向かって様々な意見を尊重しながら、まとめていくことは、多少苦労もありますが、とても充実感がありました。最終的にまとめたイベント当日の主な内容は、以下の通りとなりました。

- ・17：00～ 受付開始（～ジャズ音楽（CD）を流しながら～）
- ・17：30～ 田部港ユネスコ協会会長 開会挨拶
- ・17：40～ 第一部開始：大学生合唱団による「クリスマスソング演奏」
- ・17：55～ 東大奇術愛好会による「マジックショー」
- ・18：25～ クイズ（※ユネスコに関連する問題を含む）
- ・18：55～ 第二部開始：クリスマスジャズコンサート
（コントラバス：河上修氏 ピアノ：西田望氏 シンガー：石井久美子氏）
- ・19：55～ THEダンスナイト（テーマ：若い世代から高齢者まで「青春を回想する」）
- ・20：25～ 港ユネスコ活動紹介・入会の案内
田部港ユネスコ協会会長 閉会挨拶

■ インターナショナル・ウインターパーティー当日

企画を一生懸命練ってきた成果もあり、本イベントには、多数の応募がありました。申し訳なかったのは、参加申し込みが殺到してしまい、結果、多くの参加申込希望者に対してお断りすることになってしまったことです。

満員御礼で始まった本イベントは、田部港ユネスコ協会会長による開会挨拶から始まりました。



第一部は、大学生合唱団による「クリスマスソング演奏」。「サンタが街にやってくる」など心温まる歌声や演奏に拍手喝采。東大奇術愛好会による「マジックショー」は、笑いやユーモアあふれる演出に感動。クイズは、ユネスコに関連する問題を交えながら、参加者全員、参加形式で行い、笑い溢れるクイズ大会になりました。

第二部は、プロによるクリスマスジャズコンサートから始まりました。著名な演奏家の演奏は、予想を上回る「圧巻の演奏」でした。シンガーの歌声もとても素晴らしかったです。



最後の締めは、『THE ダンスナイト』。この企画こそまさに、最後の締めとして、せっかく盛り上がった企画を台無しにしてしまうのではないかと懸念していた企画でしたが、永野博氏（東京都ユネスコ連絡協議会会長、元港ユネスコ協会会長）をはじめ、多くの方々にダンスのご協力いただいたこともあり、若い世代を中心に大変盛り上がり、最後は大盛況のイベントとして幕を閉じました。

■ 古市常任理事から一言

第一回国際・ウィンターパーティーは大盛況に終わることができました。長年の思いを実現することができたのは、皆様のご理解とご協力のおかげと心より感謝しております。これを機会に、より多くの幅広い世代の方々が集う交流の場として、また、港ユネスコ協会の発展のために、これからも楽しい国際・ウィンターパーティーを企画していきたいと思っていますので、更なるご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

■ 児玉委員長から一言

港ユネスコ協会初のイベント、「国際・ウィンターパーティー」に参加しました。当日は、音楽ライブ、合唱、マジックなどの催し物に始まり、プレゼントが当たるクイズ大会やダンスパーティなど、年末にとっても楽しい時間を過ごすことが出来ました。年の瀬を明るく照らす恒例行事になることを願います。

東京都ユネスコ連絡協議会では、現在2000人プロジェクト等を実施しております。

この企画は会員数を増やすことが目的ではなく、ユネスコ会員が楽しく充実した活動をする事で、共に活動する仲間が増え、その結果として、ユネスコ活動に関心を持ち参加していただく方を募集しているものですが、今後私たち一人一人が次世代のために何ができるのか？

港ユネスコ協会ユース活動委員会としても、「インターナショナル・ウインターパーティー」などを通じて、一人でも多くの方々にユネスコ活動を知っていただくきっかけづくりをしていきたいと思っています。今後も多くの若者に積極的に参加いただけるような、笑顔溢れる魅力的なイベントを企画していきたいと思っています。

(副会長／東京都ユネスコ連絡協議会理事 峰尾茂克)

(P.1 から続く) コロナ明けで再開した姉妹都市交流

する高校生が選抜された後、動機を書いたエッセイの写しが私達の参考用に送られてきます。これを読むと、殆どの高校生が訪日希望の動機として、是非とも日本の本場でアニメやマンガの関連施設を見学したいから、を挙げています。

日野側のホストファミリーも、こうした希望を叶えるべく、2週間のホームステイ中に、ジブリ美術館、東映アニメスタジオ、アニメフェス等を訪問できるよう協力しています。また、都心の原宿、渋谷、浅草などの観光スポットに加え、日野市内の歴史・文化施設、寺院、小中高なども見学してもらっています。特に地元の高校ではESS、茶道、コーラス、ブラスバンド、スポーツなどの部活を見て回り、随時部員の中に加わり、言葉の壁を越えて実に楽しそうに交流しています。さらに毎回、京都・奈良への2泊3日の小旅行も組み込んでおり、桜のシーズンに新幹線で往復して、東京とは一味違った古都の歴史・文化に触れるのも定番になっています。

一方、日野市からは高校生達をレ市へ派遣する場合は、夏休み期間中の7月下旬に実施しています。事前のホストファミリーの選定、団体行動日程の作成などはレ市側の姉妹都市協会が慎重に進めてくれます。あちらの会長は、若い時期に日本の大学へ留学した経験もある親日家で、日本語が流暢である上、永年教師として青少年を育成してきた経験が豊富な明るい人柄で、両市の関係者から全幅の信頼を得ています。日野の高校生達は週日は団体でレ市内の歴史・文化・教育施設、消防署、警察署等を見学して回ります。歴史的建造物のひとつバレージ・マンションにはアイゼンハワー大統領が愛用していたソファが展示されています。週末になるとホストファミリーと一緒に、ディズニーランド、ハリウッド、サンタモニカ、エンゼルスタジアムなど、思い思いの観光スポットを訪ねます。また、毎回、サンディエゴへの2泊3日の小旅行を組み入れています。

日野の高校生達がレ市における2週間のホームステイを終えて帰国した後、報告会を設けて異文化体験を語ってもらっています。若くて多感な時期に現地のホストファミリーと起居を共にして、文字通り「People to People」の触れ合いをする中から、様々な「気づき」を得たことが伝わってきます。英語の勉強不足を痛感した、日本に関する基本的なことを訊かれても答えられずに自分の無知を恥じた等々。こうした「草の根交流」から、相互理解と信頼感が醸成されて、永続的な友人関係へと発展したなら、それは両市の高校生一人一人にとって一生の財産になることと思います。

「ミンダナオ子ども図書館」への寄贈

日時:2022年11月16日実施
担当:今村、磯部、田川、石合、奥村

ミンダナオ子ども図書館とは

ミンダナオ子ども図書館は、2002年松居友氏が、フィリピン・ミンダナオ島の中央に位置するキダパワン市の郊外のアポ山麓の農地に立ち上げられた現地法人である。

主な活動は

- ①読み聞かせなどの子ども図書館活動&先住民族やイスラム教徒、難民の子供たちへの読み聞かせ
- ②奨学生支援 ③医療支援 ④保育所建設支援 ⑤植林環境支援 など

これらの活動の中心となっているのは、奨学金を受けている学生たち。宗教・部族の違いをこえて青年や子供が共同生活をしながら学び、活動をしている。又、日本からの大勢の支援者の寄付によって成り立っている。

毎年、港区民祭りが終わる頃に、磯部さん今村さんとミンダナオ島への寄贈品の発送日の日程が話題になる。今年度は更に田川さん、石合さんもお手伝い下さるとの心強い申し出を受け、11月16日に決定した。事務局からは発送用の段ボールの手配をして頂き当日を迎えた。区民祭りで残った品々と会員・一般の方々からの寄贈品等を、島民の方々の笑顔を想像しながら和気あいあいと詰めていく。

12月に入り、貨物船はどのあたりまで進んだかな?と想像していたら何と12月3日にTVのニュースでミンダナオ島にM7.7の地震発生を知らされた。一瞬、寄贈品は海に・・・と悪い予感が走った。どうか無事に着きますようにと祈るばかり。何と先方の担当者からMUA宛に荷物が着きました!という感謝のメールを頂き安心した次第である。後日寄贈品を手にも、嬉しそうな表情の写真も送信して頂いた。次年度は島民の方々がどのような品をご希望か伺い、少しでも寄り添いたいと思っている。



(常任理事 奥村和子)

文化体験教室委員会
日本の伝統文化「いけばな」

日時：2022年11月18日13時30分～16時00分
会場：港区立生涯学習センター101号室

いけばなは仏教伝来により仏に花を供える風習が伝えられたことから始まったと言われています。今回は、池坊中央研修学院研究員の中村正和氏を講師にお迎えし、港ユネスコ協会の文化体験イベントでは初めてとなるいけばな体験教室を開催しました。当日は5名の外国人を含む29名が参加しました。

実施内容：

- ・いけばなの歴史や理念の解説
- ・講師によるデモンストレーション
- ・いけばな（自由花）体験

まず、講師の中村先生よりいけばなの歴史や発展についてお話があり、池坊では草木のありのままの姿を見つめ自然に対する尊厳の想いをもつことを大切にしており、咲いている花だけではなく、虫食い葉や枯葉にも美しさを感じ大切にしているという説明がありました。続くいけばなのデモンストレーションでは、どのようにお花をいけていくのかを解説していただきました。手順やポイントの説明とともに手際よく作品が作り上げられ、その様子に参加者全員が真剣に見入っていました。続いて参加者も同じ花材を使って実際にいけばなに取り組みました。「同じお花を使っていけても決して同じ作品にはならない」という先生のお話の通り、それぞれが思いを込めて唯一無二の作品を仕上げていました。



海外でもいけばなワークショップを開催されている先生のお話は日本人だけでなく外国人の参加者にもわかりやすく興味深い内容でした。参加者の皆さんからは「とても興味深く勉強になった」「ぜひまた家でもいけてみたい」「空間を作るという視点が新鮮だった」「参加して本当に良かった」といった感想が聞かれました。熱心な参加者の皆さんと参加者全員の作品に一つ一つご指導・ご助言くださった中村先生に深く感謝申し上げます。



(文化体験教室委員会 横井彩)

第七回日本語スピーチコンテスト

日時：2023年12月10日(日) 13:30～16:00

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」ホール

今回のコンテストには 港区長の武井雅昭様及び、港区教育委員会教育長の浦田幹男様のご出席をいただき、13名のコンテスト出場者と沢山の見学者を迎え、下記の式次第に沿って執り行われました。

1. 開会宣言 司会 田川純子
2. ご挨拶 港ユネスコ協会 田部揆一郎会長 (右写真)
3. 来賓ご挨拶 港区長 武井雅昭様
4. スケジュール紹介
5. 審査員紹介



第一部 スピーチ

13名の出場者がそれぞれのテーマでスピーチを行いました。

第二部 会場見学者と出場者との交流会

担当：小林 亮 玉川大学教授

ファシリテーター：玉川大学ユネスコクラブ学生



小林教授の指導の下、見学者はコンテスト出場者を含む複数の小グループに分かれ、「日本と自国の違い」や「日本でのエピソード、日本への思い」などについて自由なトークを行いました。

第三部 審査結果発表と授与式

審査員長で明治学院大学教授の渋谷恵様より各賞が発表されました。

(右写真：審査員長および最優秀賞のKimさん)



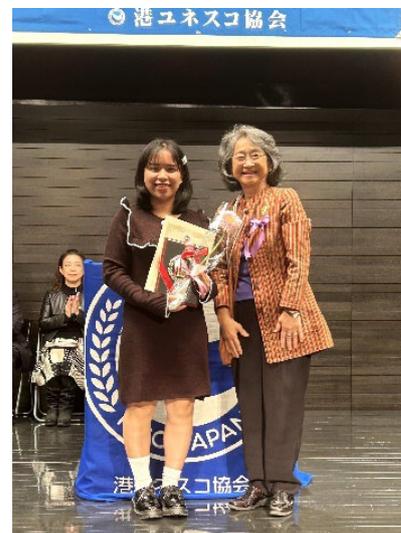
最優秀賞 Gyuri Kim
港ユネスコ協会会長賞 Hla Yamin Oo
港区長賞 Ganbold Oyuntungalag
港区教育長賞 Aye Chan ko
港区商店街連合会会長賞 胡 卓熙
審査員賞 Linh Thi Tran
優秀賞 Poorva Pramod Ponkshe
優秀賞 Batsukh Altangerel
優秀賞 Nguyen Thi Thanh
優秀賞 Tran Thi Bich
優秀賞 Thuzar Wai
優秀賞 Robert Edward Shiffer
優秀賞 Dinler Ceyda
会場特別賞 Hla Yamin Oo

ギュリ・キム	(韓国)
ラ・ヤミン・ウー	(ミャンマー)
ガンボルド・オユントンガラグ	(モンゴル)
エイ・チャン・コー	(ミャンマー)
コ・タクキ	(中国香港)
チャン・ティー・リン	(ベトナム)
プルヴァ・プラモド・ボンクシェ	(インド)
バトスフ・アルタンゲレル	(モンゴル)
グエン・ティ・タイン	(ベトナム)
チャン・ティー・ビック	(ベトナム)
トゥザー・ウェイ	(ミャンマー)
ロバート・エドワード・シッファー	(アメリカ)
ディンレル・ジェイダ	(トルコ)
ラ・ヤミン・ウー	(ミャンマー)

受賞者にはそれぞれ賞状とカップ(若しくは盾)が授与されました。また、会場の見学者の投票による「会場特別賞」受賞者には賞状と輪島塗のお箸が授与されました。

コンテストを終えて

第7回となる今回の日本語スピーチコンテストにはこれまで通り、港区長と教育長のご出席をいただきました。また、出場者には沢山の応募の中から8カ国13名のかたが選ばれました。



最優秀賞を受賞したインターナショナルスクール9年生のギュリ・キムさんのスピーチは感動的でした。彼女の実体験が人権問題や国際情勢に対する理解を深めるきっかけとなったことが伝わってくる内容で、異なる国々での生活を通じて目撃した出来事が自分達の直面している問題に真剣に向き合う姿勢を生んだようです。司会者として壇上で聞いていた私は 彼女のスピーチにとっても胸を打たれました。そして、そう思ったのは自分だけではなく審査員の先生方もそうであったようで、最高得点を獲得し、この最優秀賞に繋がりました。



それにしても、毎年、日本語のレベルが高くなり、多彩な語彙、複雑な文法表現を巧みに使い分ける出場者の実力には脱帽してしまいます。出場者の皆様、見学者の皆様、そして陰で支えてくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

(常任理事 日本語スピーチコンテスト委員会委員長 田川純子)

『東京の森川海を知る』に参加して

日時：2023年12月17日（日）

主催：港ユネスコ協会 共催：港区教育委員会
東京海洋大学水圏環境教育学研究室



港ユネスコ協会のイベントの中でも、毎年人気の「東京の森川海を知る」に今年も運営スタッフとして参加しました。東京海洋大学海洋政策文化学科教授の佐々木剛先生、東京海洋大学の大学生のコーディネートにより、午前中は東京湾をクルーズ船で巡り、午後は新宿区の花園神社から早稲田大学～目白台～江戸川橋まで徒歩で散策しました。当日は12月初旬とは思えない暖かさと青空に恵まれ、終日和やかなムードで過ごすことが出来ました。

（午前）

午前10時に日の出埠頭より、東京海洋大学所有のクルーズ船にて東京湾へ。好天に恵まれ波も穏やかで、参加者の表情も明るく楽しいムードで出航しました。船が築地に差し掛かるころ、東京海洋大学の学生が企画したクイズ大会が始まりました。「旧築地市場はなぜここに作られたのでしょうか？」とのシンプルな問いに参加者からも積極的な発言がそこかしこから上がりました。親子で参加された小学生の回答には一同感心することしきりの場面もありました。佐々木先生より、鉄道輸送の利便性から築地に作られたとの解答に東京の街並みと海との関係を改めて認識し、感心しっぱなしのクイズ大会でした。

その後、船の甲板で参加者が思い思いに記念撮影などを楽しんでいました。お台場をはじめ、湾岸地区はタワーマンションが立ち並び、刻々と変化する街並みを海上から眺めながら、海の大切さを実感しているようでした。





(午後)

海を満喫した後、午後は陸の旅へ。一行は電車で新宿区の花園神社へ移動。花園神社裏手のゴールデン街を抜け、区役所通りと並行する「四季の路」へ。ここで佐々木先生からクイズが。「我々が立っている四季の路の下を流れる川は何川？」そもそもこの下に川が流れているとは。新宿生まれという男性から、幼少期にここには神田川が流れていたことなどを教えていただき、午後の旅も発見続きのスタートです。

一行は、明治通りを池袋方面に北上し、次の目的地は戸山公園の箱根山へ。箱根山は44.6mながら新宿区で一番高い山で、頂上の展望台で記念撮影。



きつい階段を昇りながら、ここでも川の流れを実感することができたのでした。楽しい旅はまだまだ続き、早稲田大学で小休憩、その後ようやく神田川に架かる駒塚橋に到着。関口芭蕉庵と椿山荘を左手に眺めながら、神田川の旅もゴールの江戸川橋へ。

東京の街に流れる川を海から巡り、森川海のつながりを知ること。佐々木先生の解説を聞きながら、海を巡り、川をつたって森を歩くことで私たちの生活と「水」がいかに関わっているかを体感する大変贅沢な一日でした。

(ユース活動委員会委員長 児玉 晋)

令和六年 会員懇親会「新年のつどい」を開催！

日時：1月17日(水) 18時から
場所：NEC芝倶楽部(三田)

昨年はコロナの間の忸怩たる思いから脱出し新たなエネルギーを生み出すスタートの年でした。特に会員拡大においては新しく入った方々への歓迎に重点をおいて「1st Welcome Meeting」を既会員との交流として数回開催、イベント参加を促したり、委員会活動につながる道筋を案内したりの一年でもありました。種々のイベントで労苦をともにした仲間、新たに入会された方との親睦のつどいとして17名が参加しての楽しい会となりました。

石井義明常任理事の司会により、まず元旦の「令和六年能登半島地震」の犠牲になられた方々への哀悼の意として黙祷をささげました。全員から自己紹介含めての挨拶の後は理事の清水軍治さんによるアコーディオンに合せてのお楽しみコーラスタイム。飯田美津代さんのマラカス、そしてタンバリンでの飛び入りもあり、歌って、踊って・・・

百万本のバラ、いい日旅立ち、白色は恋人の色、瀬戸の花嫁、誰もいない海、神田川、いつでも夢を、夜明けの歌、サンタルチア、おおブレネリ、旅愁、埴生の宿、オー・ソレ・ミオ、夕焼け小焼け、最後に谷村新司のいい日旅立ち、四季の歌 と懐かしのメロディを清水さんありがとうございました。

全員での歌声の時間もあっという間に過ぎてしまう中、最後に集合記念写真を撮り、石井常任理事の閉会の辞によりお開きとなりました。この「新年のつどい」が益々の団結となり良いスタートとなるよう祈念しております。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



(副会長 小林敬幸)

日本の伝統文化「茶の湯体験教室」実演と体験

講師：松村宗幸

日時：2024年1月27日(土) 13:30～16:00

会場：港区立生涯学習センター203号室

内容： 1. お茶の歴史の説明
2. 畳での歩き方
3. 挨拶の仕方
4. お抹茶のいただき方

会費： 1,000円

抹茶： 濤声の白（青松園）

菓子： 花びら餅（東宮製）



参加者24名の全員が港区在住、在勤、在学の方で、内8名が外国籍の方でした。国籍は、スロベニア、ギリシャ、ベルギー、メキシコ等で、主な勤務先が大使館で、ある国の大使も1名参加いただき、実体験いただきました。



ひとつこと：参加者の皆様、講師の話を熱心に聞いておられ、また実際に体験いただき、楽しんでいただいたようです。時間的にも丁度良かったと思いました。

(常任理事 笠原正子)

2023年度第二回 世界の味文化紹介

薬膳料理教室

講師：山口由美子氏

日時：2024年2月4日（日）12時～15時30分

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」料理室

参加者：区民18名、スタッフ7名

講師の山口由美子さんは、福岡市在住で、国際中医師、国際薬膳師、国際薬膳調理師等の資格を持ち、主宰する薬膳料理教室「マンダリンキッチン」にて、日々多くの生徒さんに中医学と薬膳料理をご指導していらっしゃいます。リクエストの声にお応えして、港ユネスコ協会での山口先生の薬膳料理教室は今回で三回目となります。「薬膳のお話も、調理実習のご説明もきちんと参加者様にお届けしたい」という山口先生のご配慮の元、今回は調理説明・実習→薬膳講義→実食とし、それぞれの内容をじっくりと深めることができました。

今回のメニュー：

- ①参鶏湯風スープ→補気力アップ。脾も補う、お薬のようなスープです。下味を付けた鶏手羽元と鶏胸肉、はと麦、もち米、香味野菜、さらに山芋、栗、棗などを入れて煮込み、仕上げに柚子皮をのせます。深くて、優しい味わいに、身体が喜ぶのを感じました。
- ②中華風薬膳おこわ→補気力アップ。炊飯器で炊ける、具沢山おこわです。もち米に、調味料と干椎茸干蝦の戻し汁、うずらの卵、棗、栗甘露煮、銀杏、くこの実等を入れ炊きます。もち米は食べると元気になるそうで、色とりどりの具と共に美味しくいただきました。
- ③黒芝麻紅豆湯圓→体から余分な水分を取り脾を助け、腎を補う。小豆と黒摺り胡麻のおぜんざいです。白玉、くこの実、胡桃が入っている、温かいデザートでした。
- ④ジャスミン茶→巡らせるためのお茶。玫瑰花（マイカイカ）＝はまなすの花を浮かべた中国茶です。ジャスミンの良い香りと、お茶の中で開く紅色のお花に心が癒されました。



薬膳講座：

今回は、2024年の立春を迎え、春に起こりがちな不調を予防するためだけでなく、通年においても大切な『気』をテーマにお話いただきました。気が落ち込む。気が滅入るなど、私達は日常に「気」を感じて生きています。「気」は「水」と「血」と共に体を構成する三つの要素のうちの一つです。「気」は生命を維持する活力・飲食物と呼吸から作られます。「気」の役割、「気」が足りない時の症状及び対処法をご説明いただき、気を補うことの大切さを学びました。

薬膳料理の食材にはそれぞれ意味があることを知り、美味しいだけでなく、食べて健康になることを目的としているのが我々のニーズに合っているのだと思いました。山口先生は、参加者様へのお土産の中華風田作りまでご用意くださり、お心遣いの素晴らしい方でした。また福岡よりご講義に来てくださる日を楽しみに待ちたいと思います。

(世界の料理委員会 山澤絵海)

事務局便り

【ようこそ新入会員】

前回以降、21名の新入会員が加わってくださいました。

トピックスとして、石井常任理事が法人開拓いただくなかで港区の企業を訪問、勧誘いただき「賛助会員」として入会を快諾、加入くださいました。

また、12月17日に開催された「東京の森川海を知る」のイベント開催時に、ユース委員会のメンバーがお声がけくださり、参加いただいていた海洋大生とそのご友人、港ユネスコ協会から参加の高校生、合計14名が学生会員として加入くださいました。

個人会員：富田宏子様（SDGsみなとフォーラム事務局員、金城会員ご紹介）、松村みぎわ様、西村匡弘様（英語講座申込者）、佐々木直子様、ズーバー清美 森様（Website 申し込み）、学生会員：茂貫芙紀様、小西瑠花様、野田虎太郎様、丸山亜衣子様、大渡藍海様、木田善様、深谷日向子様、新拓未様、塩原陽太様、栗田風真様、坂本遥樹様、城取秀斗様、藤田佑樹様、榊原優希様、「東京の森川海を知る」時の申し込み）、更井慎太郎様（城取新入会員ご紹介）、賛助会員：堀井健一様（石井常任理事ご紹介）

【開催中・募集中の事業】

☆日本語講座 田川純子先生 1/13 スタート（土曜日 10:00～）10回

☆ビジネス英会話講座 Robert Edward Shiffer 先生 1/11 スタート（木曜日 18:30～20:00）9回

☆TOEIC対策講座 中沢萬佐雄先生 1/8 スタート（月曜日 19:00～20:30）9回

*語学教室の開催場所：港区立生涯学習センター3階 港ユネスコ協会事務局内

☆茶道入門講座 小野 宗恵先生 10/23 スタート（第四月曜 14:00～16:30）6回

港区立生涯学習センター2階 203号室 *定員枠に達し、現在募集を締め切っています。

【今後の事業予定】

☆3月7日（木）2023年度シンポジウム「私たちの「あの戦争」との向き合い方を問う」

会場：港区芝浦 リーブラ学習室C

シンポジスト：手塚千鶴子さん、米倉律さん、荻本快さん

☆3月24日（日）13:30～15:00 「歌とウクレレとおしゃべりと」

会場：港区立生涯学習センター301号室

歌（ウクレレ・ピアノ）とお話し：トウバル彩果（あやか）さん

☆3月31日（日）12:00～15:30 世界の味文化紹介「イタリア料理」

会場：港区芝浦 リーブラ料理室、講師：志村 玲子さん

【ご寄付、ご支援ありがとうございました】

★「令和6年能登半島地震」の支援のための「災害子ども教育支援募金」について

1月17日に開催されました会員向けの「新年のつどい」において、当該呼びかけをおこなったところ、多くの会員から志を頂戴し、募金額が20,145円集まりました。今後のイベント時の募金額と合わせて、日本ユネスコ協会連盟を通じて「災害子ども教育支援募金」に寄付いたします。

★今年も「ミンダナオ図書館への支援」に向けて11月に支援物資をお送りしておりました。12月14日に現地に到着し、子どもたちにプレゼントしたという報告と支援へのお礼が届きました。

★「避難民支援バザー」の収益124,000円を12月25日に国連UNHCR協会へ寄付したところ、同協会から感謝状が届きました。

港ユネスコ協会事務局 火曜日～金曜日（祝日を除く）午前10時30分～午後5時

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL：03(3434)2300 TEL・FAX：03(3434)2233

Eメール：m-info@minatounesco.jp ウェブサイト：<https://minato-unesco.jp>

